

[112]語文研究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/26934>

出版情報：語文研究. 112, 2011-12-26. 九州大学国語国文学会
バージョン：
権利関係：



学会彙報

▼第六十一回 西日本国語国文学会

於 筑紫女学園大学

二〇一一年九月十七日(土)～十八日(日)

▼平成二十三年度 九州大学国語国文学会

於 九州大学留学生センター国際ホール

二〇一一年六月五日(日)

〔研究発表〕

宇久方言における希望の「ゴチャー」について

門屋 飛 央

中世室町期における「ねまる」の意味・用法

語り継がれる「濡れ衣」説話

——博多における「濡れ衣」説話・続考—— 森 誠 子

三島由紀夫「月澹壯綺譚」論

——見るといふ行為のもつ意味・暴力性—— 河 内 重 雄

賀茂季鷹と堂上歌壇 盛 田 帝 子

広島藩の文芸と藩儒寺田臨川 久 保 田 啓 一

〔講演〕

近世思想史に関する一つの疑問

——本当に江戸の儒学は朱子学を中心としたものであったのか——

中 野 三 敏

〔公開講演〕

仏教と文学

橘 英 哲

〔研究発表〕

「無」を接頭辞とする感情語彙の歴史的研究

張 愚

——「無慙(慚)」について——

蛭 沼 芽 衣

ロシア資料の「テオル」「チオル」「トル」

『落窪物語』の典葉助をめぐる求婚難題譚考

久 保 菌 愛

——『竹取物語』からの受容を中心に—— 梁 丹

▼受贈図書(二〇一一年三月～二〇一一年九月)

湖北省博物館蔵 日本卷子本経籍文書 石 塚 晴 通

朱熹集註論語全訳 小 澤 正 明

完本色道大鏡 石 川 了

江戸狂歌壇史の研究

安田文芸論叢 研究と資料 第2輯 安田女子大学

川端康成文芸の世界 小澤 正明

現代日本語における進行中の変化の研究…

「誤用」「気づかない変化」を中心に 新野 直哉

金子光晴の詩法の変遷 その契機と軌跡 金 雪 梅

古典籍へようこそ…京都府立総合資料館の書庫から

京都府立大学文学部日本・中国文学科

近現代詩の可能性 モタニズムの視点・女性の視点

江戸の紀行文…泰平の世の旅人たち 島 村 輝

物語の生成と受容… 板 坂 燿 子

人間文化研究機構国文学研究資料館文学形成研究系

「平安文学における場面生成研究」プロジェクト編

国文学研究資料館 中 村 康 夫

本を千年つたえる…冷泉家蔵書の文化史 藤 本 孝 一

天理図書館開館80周年記念特別展…新収稀覯本を中心に

忍頂寺文庫目録…大阪大学附属図書館所蔵

大阪大学附属図書館

愛知県下諸家文書目録 国文学研究資料館調査収集事業部

尾張国名古屋元材木町犬山屋神戸家文書

国文学研究資料館調査収集事業部

松籟 第2冊 王朝文学協会

日本の宗教と文化…陰陽師、勧進聖らの担った民俗信仰

京都光華女子大学真宗文化研究所

DVD版尾崎家本平家正節解説…

平成22年度文化庁芸術団体人材育成支援事業

「尾崎家本『平家正節』」に関する情報交流」成果報告書

荻野検校顕彰会

ふれあい文芸〈平成二十三年版〉 日本化学技術振興財団

歴史に埋もれた名医・徳永雨卿

佐賀大学地域学歴史文化研究センター

忍頂寺文庫・小野文庫の研究5 飯 倉 洋 一

北斎研究 墨田区文化振興財団

芸備孝義伝 二編 安田女子大学言語文化研究所

熊本文化叢書5、6、7及付録 熊本県立大学 日文資料室

ひとつじ意味論講座5 主観性と主体性 青 木 博 史

目録学の構築と古典学の再生…

天皇家・公家文庫の実態復原と伝統的知識体系の解明

田 島 公

「大日本史編纂記録」目録 田 島 公

▼平成二十四年度九州大学国語国文学会

総会並びに研究発表会のお知らせ

平成二十四年度九州大学国語国文学会を、平成二十四(二〇二二)年六月三日(日)、九州大学中央図書館別館・視聴覚ホールにて開催いたします。多数ご参加下さいますよう、ご案内申し上げます。

なお、研究発表をご希望の方は、発表題目を平成二十四年四月十日までに九州大学国語国文学会までお申し出下さい。

研究発表題目等の詳細につきましては、平成二十四年五月上旬にあらためてお知らせいたします。

〒八二一八五八一 福岡市東区箱崎六一一九一

九州大学文学部内九州大学国語国文学会

(Tel・Fax:〇九二一六四二二二三九五)

ホームページアドレス

<http://www.lit.kyushu-u.ac.jp/japano/>

(研究室のアドレスも記していますので、学会関係・住所変更等の各種連絡にも御利用下さい。)

《規 定》

- 一、投稿は原則として九州大学国語国文学会会員に限るが、それ以外の方に寄稿を依頼することもある。
- 二、投稿原稿は四百字詰原稿用紙三十枚内外を一応の規定とし、その際、二枚程度の要旨を添付されたい。
- 三、原稿の採否等については運営編集委員会に一任されたい。
- 四、刊行は年二回を原則とする。
- 五、刊行会費は現在年額維持会員四千元(各号二部配布)、通常会員二千元(各号一部配布)とする。
- 六、執筆者には別に二部を贈呈し、希望者には抜刷を実費で分ける。
- 七、会員以外の購読者は毎号ごとに誌代を納められたい。